

問1 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 日本書紀                      2. 魏志倭人伝                      3. 風土記                      4. 古事記

問2 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？

1. 飛鳥                      2. 本郷                      3. 向ヶ岡                      4. 弥生町

問3 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？

1. 九州地方                      2. 近畿地方                      3. 東北地方                      4. 中国地方

問4 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？

1. 対馬                      2. 壱岐                      3. 種子島                      4. 志賀島

問5 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？

1. 土器                      2. 石器                      3. 鉄器                      4. 青銅器

問6 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？

1. 銅矛                      2. 銅鐸                      3. 銅鏡                      4. 銅剣

問7 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？

1. 狩り                      2. 戦い                      3. 祭り                      4. 交易

問8 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？

1. 倭国                      2. 邪馬台国                      3. 小国                      4. 奴国

問9 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？

1. 桓靈                      2. 光武帝                      3. 文帝                      4. 献帝

問10 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？

1. 武帝                      2. 始皇帝                      3. 光武帝                      4. 玄宗

問11 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？

1. 古事記                      2. 魏志倭人伝                      3. 後漢書                      4. 日本書紀

問12 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？

1. 三内丸山遺跡                      2. 大森貝塚                      3. 登呂遺跡                      4. 吉野ヶ里遺跡

問13 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？

1. 法典                      2. 地理書                      3. 歴史書                      4. 随筆

問14 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？

1. 木器                      2. 石器                      3. 土器                      4. 金属器

問15 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？

1. 隋                      2. 魏                      3. 前漢                      4. 後漢

## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問2	答え 4 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。
問3	答え 2 近畿地方	青銅器の中でも、銅剣・銅矛の文化圏と、銅鐸の文化圏は微妙に異なり、特に関西地方を中心に多くの出土が見られます。これは、当時のクニの間で文化的な交流や、あるいは対抗意識が存在していたことを示唆しています。
問4	答え 4 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問5	答え 4 青銅器	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鑄造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。実用的な強度を持つ鉄器とは異なり、精神的な価値や共同体の結束を高める象徴としての役割が強かったといえます。
問6	答え 1 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭礼の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問7	答え 3 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問8	答え 3 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐる激しく争いました。
問9	答え 2 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問10	答え 3 光武帝	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である光武帝は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。これは当時の日本が中国の王朝から「倭の国の一つ」として公的に認められた歴史的な出来事です。
問11	答え 3 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問12	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問13	答え 3 歴史書	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。これらの書物には、日本（倭）の地理や、百余りの小国が乱立していた様子、金印の授与、卑弥呼が統治した邪馬台国の様子などが詳細に記述されています。
問14	答え 4 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問15	答え 4 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。